



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

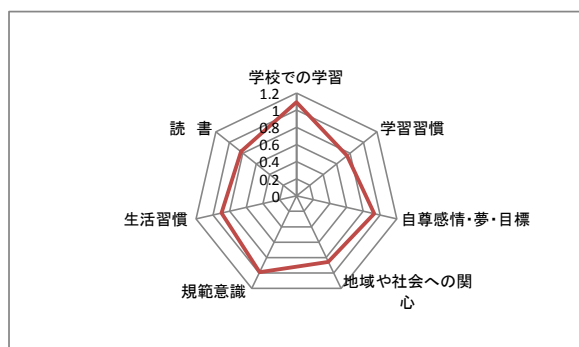
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていた。書く能力に関する問題はできていたが、話すこと・聞く能力に課題がある。	下回っている
国語B	全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていた。記述式の問題に無解答が多いという課題がある。	下回っている
算数A	全体的には全国平均正答率を上回っていた。特に、数と計算の正答率が高かった。量と測定についての知識・理解を問う問題に課題がある。	上回っている
算数B	全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていた。示された割合で基準量と比較量の関係を表している図を判断できる問題に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学習中、「友達との話し合い」や「授業の振り返り」をよく行っていたと答える児童が多く、学校での学習に真面目に取り組んでいることが分かります。

宿題を毎日する児童は多いのですが、自分で計画を立て1日当たり1時間以上勉強をしている児童や「読書が好き」と答える児童は少ない状況です。

このようなことから、学校での学習態度は、向上していると言えますが、学習習慣や読書などに課題があることがわかります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全学年で、どの教科においても、友達とともに学び合う姿勢、特に、話し合う姿勢を今後も育てていく。
- 課題のある学習内容については、朝自習やチャレンジタイムの時間を使って継続的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 読書のよさや学習習慣の大切さを通信や懇談会で保護者にも発信する。
- 今後も家庭学習強化週間を設け、家庭と連携して家庭学習の定着を目指す。